

震災語り部 いわきで養成

宮城県南三陸町で東日本

大震災の語り部活動をしている農業後藤一磨さん(65)がいわき市の語り部養成講座の講師に招かれ、25日、同市中央台公民館で講演する。

◇
後藤さんは本年度の講座の1番手の講師として「震災から学ぶ・未来への歩み」と題して話す。

後藤さんは震災の津波で自宅が流され、町内の仮

宮城・南三陸の男性あす講演



講師を務める後藤さん

設住宅で暮らす。震災体験を語り継ぐと、震災2

「被災地では震災遺構が

出した震災から何かを学ぶには語り部の活動が重要だ」と語る。

カ月後の2011年5月 姿を消しつつあり、震災体に

に語り部の活動が重要

に語り部の活動を始めた。 験を伝えるのが難しくなっ

いわき市も津波被災地で

町文化財保護委員も務めている。2万人の犠牲者を

昨年10月、語り部の養成を

市「教訓伝えるこつ学ぶ」

始めた。現在8人の語り部が登録する。西日本を中心に関係者の視察が相次ぎ、語り部の増員が求められ、本年度に講座を拡充した。

市の担当者が南三陸町を視察し、後藤さんの的確な説明を聞いて講師をお願いしたという。「体験に基づいた説明のこつや心構えを学びたい」（観光交流課）と話す。

後藤さんの講演は午後2時から。先着順で定員50人。参加無料。連絡先はいわき復興支援・観光案内所0246(25)8163。